

1 題材 「楽しく思いを伝えよう」

2 指導計画（3時間完了）

- (1) 写真を加工しよう・・・2時間（本時1／2）
 (2) 思いを伝えよう・・・1時間

3 本時の指導

- (1) 目標
 ○ 画像編集ソフトを使って写真を加工することで、思いを分かりやすく表現することができることに気づき、写真を加工しようとする意欲を高めることができる。
- (2) ICTを活用することによる効果
 電子黒板で写真を提示し、実際に操作しながら写真を加工する例を示すことによって、思いが伝わりやすい加工方法についての理解が深まる。
- (3) 準備
 教師：電子黒板、液晶プロジェクタ、ノートパソコン、加工用画像、ワークシート
- (4) 指導過程

| 時間配分 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点と方法 |
|--------------|---|---|---|
| 2分 | 1 本時の学習内容を知る。 | ○ 加工前と加工後の写真を提示することで、写真を加工する面白さを知り、画像を加工する方法を学びたいと思えるようにする。 | |
| 37分 (12分) | 2 画像の編集方法を学ぶ。 (1) 画像を加工する良さについて話し合う。 | ○ 電子黒板に加工前、加工後の画像を並列して提示し、その違いや加工することの良さに気付けるようにする。 ○ 加工の工夫について、良い例と悪い例を提示し、何が違うかを考えさせる。 | |
| (10分) | (2) 電子黒板に提示された画像をもとに、画像編集ソフトの使い方を知る。 | ○ 加工にこだわり過ぎると逆に分かりにくくなるため、シンプルな加工方法を提示するよう心がける。 | |
| (15分) | (3) 場面に応じた加工方法について考える。 | ○ 伝えたい思いに応じてどの加工方法がいいかを考えさせるようにする。 ・ 一部を強調して見せたい。 → 拡大する、丸で囲む。 ・ 大事な情報を考えさせたい。 | ○ 場面に応じた効果的な加工方法について、理解することができたかどうか、発表の様子やワークシートか |

| | | | |
|----|----------------------|------------------------------|-------|
| | | →塗りつぶす，ぼかす。 | らつかむ。 |
| | (3) ワークシートに本時の感想を書く。 | ・ 情報の中身を当ててほしい。 | |
| 5分 | 3 本時の振り返りを行う。 | →モザイクを付ける。 | |
| | | ・ 思いを付け加えたい。 | |
| | | →吹き出しを付ける。 | |
| 1分 | 4 次時の学習内容を知らせる。 | ○ ワークシートに本時の感想を書かせる。 | |
| | | ○ 次時は実際に自分たちの画像を編集することを知らせる。 | |

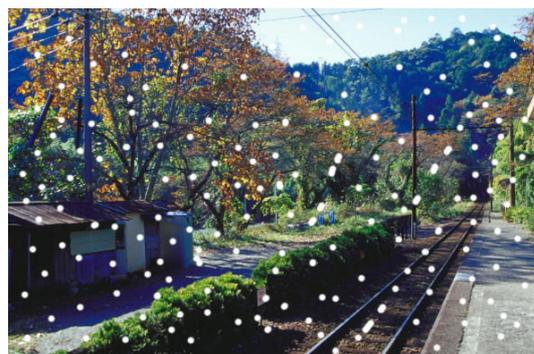
4 実践の様子

(1) 本時の学習内容を知る。

始めに，電子黒板を使い，1枚の写真を提示した。秋の山間部を撮影した写真である。「どんな様子かな」と聞くと，「木が紅葉している」や「よく晴れている」などの意見が出た。そこで，その隣にもう1枚，写真加工ソフトを使い，雪を降らせた同じ写真を提示した。すると，子どもたちの中から「雪が降ってる！」や「おもしろいね！」などのつぶやきが出てきたので，「写真を加工するといろいろなことが表現できるんだよ。今日は写真の加工について勉強しよう」と話した。



【加工前の写真】



【加工後の写真】

(2) 画像の編集方法を学ぶ。

そこで，写真加工の良さや悪い例について考えるために，1枚の猫の写真を提示しながら，「どう加工したら，この猫の可愛らしさを，もっと強調して相手に伝えることができるでしょうか。」と子どもたちに問いかけ，3枚の加工例を順番に提示した。子どもたちはそれぞれの加工写真ごとに，「余分な飾りが多過ぎる」や「中心となる部分をもっと大きく拡大したらいいんじゃないかな」などと話し合い，問題点や解決策を明らかにすることができた。



【問題点について話し合う様子】

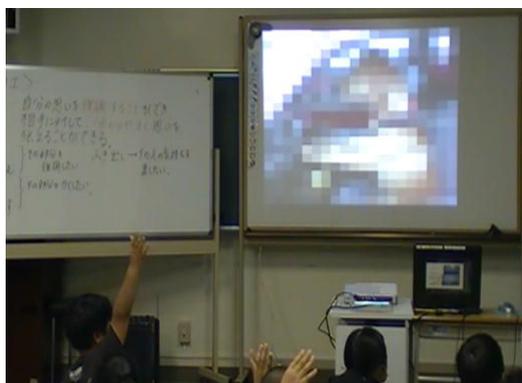


【電子黒板を使う様子】

(3) 場面に応じた加工方法について考える。



【加工方法を紹介する様子】



【クイズ大会の様子】

次に、写真の加工方法について、電子黒板や画像編集ソフトを使いながら説明した。電子黒板を使った説明には、コンピュータ室に行かなくても、教師が操作する様子を子どもたちがその場で確認できるという大きな利点がある。始めに、電子黒板の拡大機能を紹介した。操作方法を説明しながら実際に画像を拡大すると、子どもたちからは大きな歓声があがった。次に、画像編集ソフトを使い、画像のぼかし方やモザイクのかけ方、文字やイラストの入れ方などを説明した。

また、写真の加工方法を説明した後に、どんな場面でその加工方法を使うべきかを子どもたちに考えさせた。電子黒板の拡大機能を例に挙げ、「どういう場面で拡大機能を使うとよいだろうか。」と尋ねると、「そのものを大きく見せたいとき」「その部分を強調したいとき」と答えるなど、有効的な使い方をきちんと理解していることが分かった。そのほかの様々な加工方法について考えさせたときにも、「思いを付け加えたいときは文字を入れるとよいね。」「クイズを作りたいときはモザイクを付けるとよいね。」などと、様々な意見が出るようになり、「早く画像を加工してみたい」という子どもたちの関心や意欲の高まりが感じられた。

最後に、この意欲をさらに高めるために、加工した画像を使った遊びを行った。画像に付け加えた吹き出しの中にどんな言葉を入れるか考えさせたり、モザイクで隠された画像を提示し「この写真は何を撮影したものか」などのテーマでクイズを出したりした。子どもたちは大変盛り上がり、場面に応じて画像を加工することの楽しさや、いろいろな思いを伝えることに、画像の加工が役立つことを知ることができた。

5 成果と課題

- 画像編集ソフトを使って写真を加工することで、情報を発信する側の思いが受け手に伝わりやすくなることを知ることができた。
- どのような思いを伝えたいかによって、画像の加工方法を変える必要があることに気付くことができた。
- 電子黒板を活用することで、子どもの関心を高め、思いが伝わりやすい加工方法を考えさせることができた。
- 課題を提示し、考えさせることが中心だったため、加工する場面で子どもが実際に電子黒板を操作して写真を加工する活動を設けることが必要だった。
- 例に挙げた加工方法が多過ぎたため、子どもたちがどれを選べばよいか迷いがちだった。加工方法をもっと単純化した方がよいと感じた。